

編集後記

今年の夏も暑かったですね。会員の皆さん、お元気ですか。最近の気候変動と言いますか、突然の豪雨など、本当に恐ろしい限りです。恐ろしいのは天候の変化ばかりではありません。目を世界に向けると、中東や旧ソ連圏での紛争やテロはとどまるところを知りません。もう30年もまえに宗教研究家の友人が、イスラムの脅威はそれが他の宗教と違って世俗化しないことだ、と言ったことを思い出します。ぜひ一度、いつからイスラムの脅威が始まり、どうすれば収まるのか、イスラムは世俗化できるか、などについて専門家の意見を聞きたいと考えます。最近の「イスラム国」の脅威は専門家も戸惑っているようで、それが世界中に拡大していく第一歩だとすれば、日本は蚊帳の外に居続けることができるのかどうか、知りたいと考えるのは筆者だけではないように思いますが、いかがでしょうか。

さて、前置きが長くなりましたが、が研究所の機関紙、*e-Magazine* 第10号をお届けします。今回も面白い論考がそろいました。内容は読んでいただくとして、注目されるものを紹介しておきましょう。まず、中国の専門家でときどき日本のテレビなどにも顔を出しており、ご存知の方も多いと思いますが、日本政治や日中関係の専門家である北京大学教授の梁雲祥氏に依頼して、中国から見た日本政治と日中関係について書いていただきました。彼は専門家らしく、客観的な見方に終始しており、教えられる

ことも多く、実に説得的だと感じます。日中にとって、問題なのは日本の右傾化と中国の左傾化ですが、中国の左傾化は毛沢東主義への回帰を意味し、日本の右傾化は戦前回帰の様相を呈しています。日本の右傾化は時代錯誤と言われても仕方がないのですが、梁氏によれば、それは珍しいことではなく、戦後の日本でしばしば現れた傾向だとのこと。それを中国の人々が理解しないで、現在の日中関係の悪化の原因を右傾化のせいにするだけでは解決に至らない。日中関係の改善には相互に理解し、慣れることが重要だとの指摘は十分説得的でしょう。

フィリピンはなぜNIEsになれなかったのか、をご執筆いただいた水野順子氏の論考も大変興味深いものがあります。フィリピンはアジアで最初に民主化し、戦後はアジアで最も工業化が進んだ国でした。それなのに、それより20年もあとから発展を介したシンガポール、韓国、台湾がNIEsになったのに、フィリピンがなれなかったのはなぜか、を問う問題意識が大変興味をひきます。ぜひご一読ください。

もう1つ注目してほしいのは、わが研究所の会員・田口佐紀子氏が、長年の現地取材など苦勞を重ねて買い上げた作品が「潮アジア太平洋・ノンフィクション賞」を受賞されたことです。詳しい内容は『潮』10月号に掲載されますので、ご覧いただきたいのですが、田口氏の友人で、わが研究所

理事の長谷川将氏が受賞を祝して、お祝い
かたがた作品の紹介をしておられますので、
この文章と田口氏の作品を読まれるようお
勧めしたいと思います。

今回の「ニュースの裏を読む」はインド
新政権についての記事です。8月末から9
月にかけて新大統領が訪日しており、日印
の関係をはじめ、インド経済の動向が注目

されるだけに、ぜひ一読されるようお勧め
します。それでは大分涼しい日が増え、過
ごしやすくなったとはいえ、夏の疲れも残
っているでしょうから、体調管理に気を付
け、健康に留意していただきたいと思いま
す。また秋には元気な姿が見られることを
祈っています。(朽木記)

IAM e-Magazine 第10号
2014年9月20日発行
特定非営利活動法人・アジア近代化研究所(IAM)